

三水会会報

北里大学海洋生命科学部
同窓会会報 第 69 号

平成27年3月発行

編集者 内藤 文隆

発行 三水会（北里大学
海洋生命科学部同窓会）

事務局 〒246-0031 神奈川県
横浜市瀬谷区瀬谷5-22-1

TEL フリーダイヤル
0120-873-135

目次／相模原キャンパス風景 P. 1

教授就任挨拶～北里大学での経験～ P. 2

教授就任挨拶 P. 3

瑞宝中綬章を受賞して P. 4

潜水部OB会 P. 5

就職ガイダンス P. 6

漁火祭報告 P. 7

お知らせ P. 8



相模原キャンパス 2014年

北里大学での経験

北里大学海洋生命科学部

佐藤 繁

1984年1月、三陸キャンパスに助手として赴任しました。三陸までの600キロの運転は初めての経験、当時まだ新三陸トンネルは開通しておらず、崎浜手前の袖の沢分岐から大学までは車のすれ違いが難しい細い林道です。折からの大雪の中、車が何度も滑ってしまい、よくまあ無事故でたどり着いたものだと思います。着任して何日かたったある日の朝、とある先生がやってきて「あの相模ナンバーXX-XXXXの白い車は誰のだ？」とのご下問。「私のです」と答えると、「お前のか。良かった！」。見ると私めのボログルマのドアが凹んでおり、なにが良かったのか分からないなりに「これは大変なところに来てしまった」と困っていると車好きの学生さんが「これ、試してみましよう」。お手洗いの詰まりを解消するのに使う吸引ゴムを、凹みに押し当て引っ張って見事に元通り。当時の卒論生の皆さんは、まさに頼りになる先輩、という存在でした。

三陸で干支を一回りしたところ、ロードアイランド大学薬学部で客員研究員としてお世話になってい

たことがあります。行った当初は緊張しましたが、慣れるのは早かったです。ロードアイランドは合衆国の中では人口稠密な州ですが、どこに行くにも車が必要で、真つ暗な夜道を漫然と走っているとし力みたいな野生動物に衝突してしまふし、休みの日に行きたいところに行こうとすると何十キロ、何百キロのドライブになつてしまふし、海辺で魚が美味しいのは良いとして、街なかで言葉が通じないことが多々あり（こつちの言っていることは先方に通じる）、研究室で機器類の調子が悪くなつたときにはメーカーのエンジニアを呼ぶより前にまず、自分でなんとかしないことには仕事が進まず、よく考えてみたら車が右側通行だけで、あとは三陸とあまり変わらない。何事も経験の賜物です。

帰国後のある日の夜半、研究室でパソコン画面と睨めっこをしていると、向かいの部屋から乾いた破裂音が響きました。ややあつてまたパンパン、あたりには誰もいません。とうとう出たか、と肝をつぶしその日は退散。翌朝、学生たちと搜索を開始してすぐ「あー、これです」。乾燥機から取り出したガラス器具を収納する際のカバーを、アルミフویلか

らラップに替えていたのを失念してました。冷め切らないうちに密封すると、夜中に温度が下がってボイルシャルルの法則に抗しきれずにラップが内側に破裂し・・・、一人では絶対、気づかなかつたでしょうね。

ご存知の方も多いと思います。私の専門は海洋生物の毒の研究です。「フグは食いたし命は惜しし」と言いますがその通り。フグ中毒による死者数は毒キノコや毒草によるものを上回り、依然として食中毒による死者数のトップを占めています。フグは種類によつて毒の強い部位が異なり、毒性が高くて肉も食べられない種類もあります。また、東北地方太平洋沿岸など、いままでもフグを食べてこなかった地域のフグ類が安全かどうか分かりませんので、食べることでできるフグの種類と部位、産地などが法的に定められています。フグ科魚類の場合、誰が見てもフグはフグなのですが、種の判別は簡単ではありません。「水晒しすれば毒が抜ける」と考えて飲食店で肝臓を提供し、お客が中毒したという例も多々あります。安全なレベルまで確実に毒が抜ける方法は今のところ知られていません。もしあつたとしたら、処理した後はきつと食べ物ではなく

なつてしまいます。フグの毒性は個体差が非常に大きいので「いままでも大丈夫だった」という経験は役に立ちません。北里大学を卒業された皆さんは、くれぐれもフグ中毒の当事者となつてしまわないようにご留意ください。

学部が相模原キャンパスに移転してはや4年、助手であつたその昔でも教授になつた今現在でも相変わらず卒論生・大学院生が研究室の主役です。これからいろいろなことが起こると思いますが、会員の皆様には引き続き、巢立つていく在校生たちにご理解とご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



MB号館前の便利な芝生

教授就任のご挨拶

北里大学海洋生命科学部

奥村 誠一



三水会の皆様、ご無沙汰しております。水産増殖学科5期生の奥村誠一です。

ご存知の方もおられるかと思いますが、私は北里大学海洋生命科学部に勤務しております。昨年の9月に教授職を拝命いたしました。まずは皆様にご依頼を賜りました。まずは皆様に御礼申し上げます。私のような者が何とかここまで来られたのも、一重に皆様のお蔭です。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。

さて、挨拶を済ませてしまつて、次に何を書こうか・・・と悩むところですが、「悩んだときにはオーソドックスに・・・」どこかで耳にしたこの格言を頼りに、月並みではありますが、「近況報告」ということでお許しを請うことといたします。

形態学的な近況： 最近の私は、35年以上ぶりに会う人には「太った」と見えるだろうし、30年から4年ぶりに会う人には「瘦

せた」と見えるような体型をしています。顔はすっかり老けてしまいましたが（写真1）。「若い時から老けた顔をしていたから、あまり変わらないよね」と、お世辞だか何だか分からないような感じで慰めてくれる人もいますが、鏡の中に映る己の顔は、やはり「寄る年波には勝てない」という感否めません。

生理・生態学的な近況： あの時まわしい震災から早いもので4年が経とうとしています。本学部の相模原キャンパスへの移転に伴い私生活は一変しました。家内を大船渡の拙宅へ残し、「チン」という音に対して条件反射を起こし、唾液の分泌が促進される単身赴任生活しております。しかし、たまには、人並み以上に長く過ごした独身時代には当たり前だった家事一般、すなわち、「拡散」という物理現象？に負けぬよう、部屋の掃除・片付けをしたり、「そろそろトイレットペーパーがなくなりそうだから買いに行かなくては」というような、ここ20年間全く使わなかった脳内ネットワーク？を再構築したりしています。生きていくためには誰もができなくてはならない当たり前のことですが、それを再履修しているところ。家内から合格点も

らえるかどうかは甚だ疑問ですが・・・（苦笑）。

次に研究のお話をしようと思います。相模原に移転しようが何しようが、今でもアワビの研究をしています（ここ10年近くの間にナマコの研究も加りました）ので、やはり三陸の海からは離れることができません。また、私にとっては三陸は第二の故郷（今となっては第一の故郷と言っても良いほどですが）なので、皆様と同じように「三陸（Iwa）」です。したがって、大船渡の拙宅は私の仕事と心の拠点となっております。昨年の大晦日に、大船渡の町内を散歩していた、少なくとも私の学生時代から姿が変わらない「新沼おけや」さんの前に来たとき、「そういえば、私が三陸へ来てから、もう37年が過ぎたのだな」としみじみと思いました（苦手な暗算をして年を数えている自分がいました）。途中、約4年間、宮城県石巻市にお邪魔していた時も含めると、私の人生の三分の二近くを三陸で過ごしている（わざと現在進行形にしました）ことになりました。しかも生まれ落ちた東京で過ごした期間のほとんどは、酸いも甘いも噛み分けられないような未熟な時代だったわけですから、三陸での生活というものが私の中に占める実

質上の割合は、ほぼ100%なのかもしれません。

すみません、三陸の話になるとついつい脱線してしまいます。研究の話に戻します。アワビとナマコを使って、遺伝育種学的な研究をしています。なかなかうまく行きませんが、簡単に言うとう、成長が良く生残率も高いような優良な形質を持つものへと品種改良することを目指しています。これまでの研究結果については、私が今までに書いた駄文をご覧いただくとして、今回は、これからやろうとしている研究について簡単に紹介させていただきます。私には、あまり難しいことを考える頭がないので（やや謙遜）、これまで研究してきたアワビとナマコを単純に組み合わせた研究をしたい、と思っています。それは「アワビとナマコの複合養殖」に基礎を置くものです。複合養殖とは、異種を同一水槽で飼育する養殖システムのことです。ナマコは、魚介類の排泄物・残餌を摂餌して成長し、有機物を吸収後排泄するため、水槽内の有機物汚染を軽減するとともに、水槽のデッドスペースである底面での飼育が可能なので、空間の有効利用という点においても複合養殖対象種として優れています。一方アワビは、栄

養価の高い配合飼料を食い散らかして有機物含量の高い糞をしませす。ですから、これらの二種（両方とも単価の高い水産重要種です）を組みあわせて、環境に優しく、かつ儲かる養殖システムを考案したいと考えています。そして、そこに使う種苗は、遺伝的に改良された優良なもの・・・なんていう願望を持っています。それを実現するためには、様々なハードルを越えなくてはなりません。が、この研究は三陸の漁業復興に資するものであると信じ、老骨にムチ打って頑張りたいと思っています。

今回の教授就任は、世間でよく耳にする少し格好つけた言い方をすると、「二つの通過点に過ぎない」のかもしれませんが、定年退職を一つのゴールと考えれば、来年3回目の成人式を迎える私にとっては、ゴールテープがおぼろげながらも見えて来た所です。陸上競技で言えば、そろそろ「ラストパート」という所なのかもしれないませんが、いかんせん若い頃のような体力は残っていません。しかし、失敗し恥をかった経験だけは豊富にあると自負？しております。この経験を学部教育・運営に活かすことができれば・・・と思っています。「もうひと頑張

り」するつもりでいますので、三水会の皆様におかれましては、学部共々これからも叱咤激励、そして指導のほどよろしくお願い申し上げます。そして、是非とも相模原の新校舎（MB号館）に遊びにいらしてください。ミニ水族館の海洋生物達が皆様を御出迎えいたします。それなりの歳の方々は昔話を、そして若い方々とは大好きな海洋生物の話を御茶受けに楽しいひと時を過ごしましょう。

ついついだいぶ文字数をオーバーしてしまいました。後ろ髪を引かれつつこの辺でそろそろ失礼いたします。このたびは本当にありがとうございました。それではまたお会いしましょう。

追伸：この原稿を書き終えた日、相模原にも雪が降りました（写真2）。この写真は、海洋生命科学部新校舎踊り場の窓越しに見た雪景色です。



瑞宝中綬章を受賞して

北里大学名誉教授
川内 浩司

平成26年秋の叙勲に際し、瑞宝中綬章の受賞の栄に浴しました。この栄誉は、北里大学水産学部ならびに三水会会員の諸兄のご支援とご協力の賜と心得、深く感謝し御礼申しあげます。早速、会員の方々から電報、電話、メールなどで、ご丁寧な御祝意を多数頂戴しました。さらに年の瀬も押し詰まりお忙しい時期、東京で盛大な祝賀会を開いて下さいました。誠に有り難く、心から御礼申しあげます。

この度の勲章と平成17年秋に受賞した紫綬褒章は、どちらも、「水産学、比較内分泌学分野の業績」を評価されたものですが、褒章はこれらの「科学分野における発明・発見」に対し、一方、瑞宝中綬章は「教育研究功労」に対して頂戴しました。言い換えれば、この勲章の定義にあるように大学における「教育研究に長年にわたり従事し、その功績を挙げたこと、つまり「三陸に集い研鑽を重ねた卒論研究生、大学院生、欧米からも含む博士研究員によって成し遂げたこと」が評価され、私が代表して頂いたのだと心得ています。思い返せば、私たちは「地の

利」・「人の輪」・「天の時」に恵まれました。私は、カリフォルニア大学サンフランシスコ校ホルモン研究所でのヒトの脳下垂体ホルモンの研究からこの分野に入りました。そこから三陸に赴任して、まだ全く未知であった「魚類の脳下垂体ホルモンの同定」を研究課題と決めました。これぞ「天の時」。そして、研究の中心に置いたサケは世界的に最も重要な研究対象魚の一つであり、三陸はその一種シロサケの新鮮な試料を充分に手に入れることができた地でした。これぞ、「地の利」。赴任に際し、スタッフも、研究費も、設備もないがらんだこの部屋の中に立ったとき、ここで研究者を育て、いずれ





「世界のホルモンセンター」を作り上げようと決意しました。確かに、研究室造りには語りつくせぬほどの苦労がありました。が、「人々との良縁」に恵まれ、今はその苦労も楽しい思い出です。三陸の地で無から出発し、このように評価されるまでに発展した動力源は水産学部のある学生たちとの出会いでした。大学院も設置され、卒論生・院生を問わず学ぶもの同士が切磋琢磨し、そこに不便な環境をものともせず、欧米から多数の若手研究者が集い、共に研鑽し、世界に通用する研究者に成長していきました。このようにして、共同研究の輪は広く国内外に広がり、互い

に信頼という堅い絆で結ばれて新ホルモンの発見も含めてサケのすべての脳下垂体ホルモンを同定し、さらに脊椎動物全般に研究領域を広げることができました。これぞ「人の輪」の極みです。今回は図らずも瑞宝中綬章を頂き、現役時代の記憶を呼び戻し、再び感謝の意を伝える機会を得ましたことは嬉しい限りです。

32年間お世話になった、水産学部を平成18年に定年退職し、研究からすっかり足を洗いました。余生は山の花の撮影と旅での出会いを楽しむに過ごしております。本誌前号でご紹介頂いたように、昨年3月、『ユーラシア大陸横断旅行記』を上梓しました。この出版と宣伝にも三水会会員の多大のご支援を頂きました。ここに合せて御礼を申しあげます。

平成23年3月11日の東日本大震災は教育研究の本拠地であった「故郷・三陸」を破壊し、私たちは大きな喪失感に苛まれましたが、幸い学部は相模原で海洋生命科学部として新しい歴史を刻みはじめています。今後の大いなる発展と、三水会会員の皆様のますますの活躍を期待しています。意を尽くせたとは思いませんが、会員の皆様に瑞宝中綬章の受賞の報告と御礼を申しあげます。

潜水部OB会開催バーベキューに参加して

増殖学科9期 古谷 正美

二週続けての週初めの台風だった。十月も半ばとなり穏やかな秋日和となった久しぶりの休日に、誘っていただいたバーベキューに参加するため、何年ぶりのことだろう東京駅で待ち合わせした大船渡から参加の同輩と相模大野の駅に降り立った。

全く見覚えのない風景。本当に相模大野の駅なのか？知ったかぶりをして先に立つが、目の前は自転車置き場。こんなはずではと昔の光景を頭に思い浮かべるも、何一つ見覚えのある場所がない。



だって米軍の歩哨が立っていて、赤と白の模様の給水塔があって、タバコ屋の際をギリギリに回旋しながらバス待ちの列に寄り添う神奈中バスがと見てみても、目の前に広がる風景は、小ぶりの仙台駅といった風情の見知らぬ光景だ。これが大野かよ？と過ぎ去った時間の長さと思いに至る。

もうひとりの同輩と三人で神奈中バスに乗って、懐かしい相模原キャンパスに向かう。やはり見知った風景に出会わない。この辺に確か忠実屋があったはずとか、それぞれの思い出の風景と現実のギャップをすりあわせている。そうこうするうちにやっと見覚えのある北里大学病院に到着した。こ





ここからは、守衛さんにお聞きした道順をたどり、海洋生命科学部の校舎へ向かう。教養の校舎は跡形もない、突き当たりのロータリーに噴水があったはずだが？と左手に折れ校舎にたどり着く。ここは球技場でこの周りを部活の準備運動で、掛け声をかけながら道着を着て走ったっけ！と感慨に浸りながら校舎横のバーベキュー会場へ。

現役の学生達と先発組が声を掛けて下さりブルーシートの用意された席へ腰を落ち着けます。現役の学生との交流が今回の開催主旨ということ、井田先生をはじめとする潜水部OBが八名、九期の同輩が五名、大学関係者二名、現役学生が二十名の参加者があり、

早速昔話に華が咲きます。やはり話題は、自然と三陸の話になり現役三年時に東北新幹線が開通し、それまでは上野発の夜行列車で歌のごとく出発し、翌日の六時半過ぎに一関の駅に降り立ち、大船渡線に乗り換えた後南リアス線に乗り換え、三陸町につくのはその昼過ぎだった、などと現役学生にとっては退屈極まりない話でOB達は盛り上がるのだった。

いい加減昼酒に良い心地となつてからも、現役学生の案内を受け、学舎の中を色々と見て回らせていただいた。ミニ水族館が有り白を基調の素敵なお新校舎だ。でもどこことなく三陸の校舎似と思ってしまったのは私だけだろうか？でも決定的な違いは、窓の外には海がないのだ。懐かしい相模原なのだけれど岩手の海がそこにはない。当たり前だけれど寂しいなあ。これからの卒業生は皆三陸の海で学ぶことなく旅立ってゆく。

聞けばこれからも現役学生との交流の機会を持たれるという。ここでは是非卒業生の皆様においては、機会あるごとに三陸の話を話されてはどうかと思う。少しでも三陸の記憶が受け継がれることを、一卒業生として切に願いたい。そして三陸を知らない卒業生におかれては、三陸町越喜来を一度は

訪ね、その昔彼の地に校舎が置かれ学んでいた卒業生がいたことを感じて欲しい。と思ってしまう。まあ難しい話でなく、幾世代の同門の方々と語る機会が持てたことに感謝したい。

用意や後片付けをしていただいた現役学生諸君、朝日田教授とその研究室の方々にもお骨折りいただき、楽しいひと時を提供いただいたことに、この場を借りて御礼申し上げたい。どうですみなさんも次の機会に参加されてみては？相模大野駅近くに学さんまだありますよ！

三水会就職ガイダンス

39期 福士 洋隆

平成26年10月1日に行われた三水会就職ガイダンスにて講師をさせて頂きました。

ガイダンスでは私がどのように就職活動をしていたか伝えました。私は水産業界を志望していましたが。就職活動期間は様々な場所に足を運び、見て、聞いて、感じて、伝える。これの繰り返しでした。やったことをいくつか挙げます。大学の先輩に直接連絡をとって会社を訪問し、話を聞く。地元漁協の方や漁業者の方と話した

り一緒に作業したりする。友人やそのご家族に文章の添削してもらう。友人と面接の練習をする。

アドバイスを頂く中で、私は話して伝えたり、表現したりすることが苦手だと分かりました。その後は志望動機など話す練習や、質問を想定してそれに回答する練習を何度もしました。しまいには鏡に向かって笑顔の練習までしました。鏡に向かってはなかなか気持ち悪いです、やらないよりやっけて良かったです。その甲斐あって4年生の6月頃には内定を頂き、就職活動を終えました。就職活動期間支えてくださった友人たち、友人のご家族、事務の皆様や就職センターの皆様にはとても感謝しています。

現在は全国漁業協同組合連合会（通称JF全漁連）で働いています。弊会の仕事内容は多岐にわたります。購買事業では漁業者に対し、石油や資材（漁船から生活雑貨まで様々）の供給をしています。また海外の海で漁業を行う漁船のサポートも行っています。指導事業では漁業をより良くするために、漁業者の経営の安定化・健全化のためのアドバイスや金融事業の推進などを行っています。各地にある漁協などJFグループに対して監査も行っています。また

水産政策活動や魚食普及活動なども行っています。お魚天国という曲をご存じでしょうか。あの曲も魚食普及活動の一環で生まれた曲です。販売事業では安全で安心な水産物を皆様の食卓に届けるために取り組んでいます。

私は販売事業に携わっています。水揚げの情報収集やその発信、水産物の仕入・販売が主な業務です。水産物は農産物など比べ、天然資源を扱う場合が多いので、状況の変化が激しく臨機応変な対応が望まれます。まだまだ分らないことだらけですが、それだけにやりがいを感じます。

私から後輩の皆さんへアドバイスできるとすれば、就活サイトやインターネットだけを使った就職



活動だけでなく、なるべく現場に近づいて人と話してみることをお勧めします。まずは親しい友人と話してみたいかがでしょうか。必ずプラスになります。応援しています。

漁火「北里祭」報告

海洋生命科学部北里会
漁火サークル 主将
森本 祐奈

私も漁火は、「三陸への感謝を忘れない」「三陸の魅力を多くの人に知ってもらう」を主旨に活動を行っています。今回は十一月一日、二日に開催された第五十二回北里祭での活動を、この場を借りて報告させて頂きたいと思います。

北里祭にはキャンパスが三陸から相模原に移転してから毎年参加しており、今年で四回目の参加となりました。漁火の活動主旨は勿論、売上を大船渡市に寄付をする目的で、炭火焼班と物産班に分かれて活動しました。

炭火焼班ではイカ一杯を炭火で焼き、醤油で味付けしたものを提供しました。こちらは毎年好評で早い時間には売り切れてしまうのですが、今年は一日目が雨天だったため、例年に比べてとても客足

が少なく、完売は諦めていました。しかし、毎年買いに来て頂いている方や、私たちの活動主旨に賛同して頂いた方など、沢山の方々の協力により無事に完売することが出来ました。

物産展はMB号館の一階にて大漁旗を目印に、かもめの玉子や南部せんべい、岩手盛岡冷麺等の岩手の特産品を販売しました。同時に、夏に三陸で行ったボランティア活動等の様子の写真をまとめたフォトブックの展示も行いました。また、去年から一人があまちゃん

の格好をするようになったのですが、今年は増員し二名で活動しました。あまちゃんになりきり、歩き売り等の販売活動を行ったところ大変好評で、炭火同様に無事完



漁火サークルの仲間達

売することが出来ました。特に学部卒業生やお年寄りの方々に喜んで頂いたのでとてもよかったです。第五十二回北里祭も負傷者を出さずともなく、無事に良い形で終える事が出来ました。今回経験したことは今後の漁火の活動には勿論、私たちの将来に活かしていきたい事と思います。また、漁火は多くの方々の支えによって活動をさせて頂いています。この場を借りてお礼を申し上げると共に、今後ともよろしくお願いいたします。



焼き上がりをお待ちいただいている様子

■ 三水会第13期代議員候補の推薦について

平成27年度は三水会第13期代議員改選期にあたります。

本会活動を円滑に運営するために代議員の協力は欠かせません、自薦、他薦は問いません、下記の要綱にてお申し込みくださいますよう、お願い申し上げます。代議員任期は平成27年5月19日から平成30年5月の定期総会までの3年間となります。

記

1. 下記をご記入の上、三水会事務局までFAXもしくは電子メールにて三水会事務局までお送り下さい。

①代議員候補者氏名、②卒業年度もしくは卒業期、③勤務先名称、④連絡先住所、⑤電話番号（携帯）、⑥電子メールアドレス

※1. 代議員の主な活動

- ・毎年5月白金キャンパスで開催（第3土曜日17時開催予定）の三水会定期総会出席（委任状も可、交通費支給）
- ・その他

※2. 推薦受付期限は平成27年3月末日です。

※3. 不明な点は下記三水会事務局まで、ご遠慮なくお問い合わせください。

三水会事務局 電話：FAX 0120-873-135

E-mail : information@kitasato-sansuikai.jp

■ 平成27年度三水会定期総会のご案内

下記により平成27年度三水会定期総会を開催します。理事、代議員はもとより一般会員も傍聴できますのでご参加ください。

開催日時：平成27年5月16日（土）午後5時～（受付4時30分）

開催場所：北里大学白金キャンパス 薬学部1号館5階1507教室

（注）：開催場所は大学の都合により変更される場合がありますので、ご参加の方は事務局までご確認ください。

- 議 事：1、平成26年度事業報告及び収支決算報告
- 2、平成27年度事業計画及び収支予算
- 3、三水会第13期役員改選
- 4、その他

編集後記

2015年に入り、フランスのパリでテロ事件が起きました。世界の状況が不安定な状態にある中、大きな自然災害を毎年甘受しながらも比較的平和を享受してきた日本にもたいへん残念な事態が起きました。中東で日本人がテロの犠牲となりました。遺憾の意を表明したいと思います。三水会会員の中にも海外で活躍されている方も多くいらっしゃると思います。くれぐれも身の安全を確保していただいたうえで、さらなるご活躍を願いたいと思います。

ところで、本文中にもご挨拶の投稿を頂いておりますが、佐藤繁先生と奥村誠一先生のお二方が昨年教授に昇進いたしました。この場を借りてお祝い申し上げます。奥村先生は三水会の会員で理事にもなっております。今後も学部の情報を適宜ご提供いただき、卒業生と学部の強い橋渡しになっていただけるものと思っております。なお、来期は代議員の改選の年でもあります。案内にもありますように自薦他薦を問いませんので、三水会を盛り立てていきたいとお考えの諸氏にはぜひご参画いただきたいと思っております。

さて、来年度は当三水会で全学同窓会の講演会を担当することとなります。現在理事会では企画を考えております。次号三水会報やホームページにおいてご案内をさせていただきますので、奮ってご参加いただきたいと思います。